

保護者のみなさまへ

吹田市立千里第三小学校
校長 大西 智子

令和4年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和4年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数、理科に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査の分析

●国語《概要》

すべての項目(設問)で平均正答率は全国と比べ上回り、良好な結果でした。

1. 「話すこと・聞くこと」の領域の「互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめる問題」では、話し合いの様子の一部から言葉や文を取り上げ、その問題点に対する解決策をまとめました。ただ、半数程度の児童が正解できず、課題が見られました。
2. 「読むこと」の領域では、いずれの項目においても全国正答率を上回るなど、登場人物の気持ちや相互関係に着目しながら物語の全体像を想像したり表現の効果を考えたりすることができました。
3. 「書くこと」の領域では、今年度の調査で初めて学習指導要領の〔第5学年及び第6学年〕における〔思考力、判断力、表現力等〕の「B 書くこと」の「共有」に関する指導事項が取り上げられました。「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける」という趣旨の問題でした。正答率は全国を上回ったものの、高い無回答率を示すなど課題が見られました。
4. 「言葉や言語文化に関する事項」の領域では、いずれの項目でも、全国平均値を上回っていました。
5. 全体を通して無回答率の高さが目立ちました。特に、「内容を読み取り、要約しながら記述回答する問題」と漢字の書き取りの無回答率が高かったです。

☆国語科における今後の指導改善点について

比較的正答率が低かった問題は、文章で記述する問題です。読んだり聞いたりする力や書く力を付けるために、文章全体の構成や展開を明確にしたり、感想や意見を伝え合ったりする活動に取り組みます。

●算数《概要》

すべての項目(設問)で平均正答率は全国値を上回り、良好な結果でした。

1. 「数と計算」では、平均正答率が全国値より上回りました。計算する技能は身に付いているが、数量関係に着目し、数の処理の仕方を考察する問題では、課題が見られました。
2. 「図形」では、平均正答率が全国値を上回りました。正三角形や平行四辺形の構成の仕方を問う問題で、課題が見られました。
3. 「変化と関係」は、全国値を上回りました。数量が変わっても割合は変わらないという「割合」の意味の理解について、課題が見られました。
4. 「データの活用」では、円グラフの数量と項目について正確な読み取りをすることができ、全国値を上回りました。

☆算数科における今後の指導改善点について

記述式問題について、無回答率が全国と比べて低かったものの、式の意味理解や計算の求め方を説明する問題については、全国と同様に本校においても課題が見られました。

算数の知識・技能は定着しているが、情報が多くなったり、複雑になってきたりすると、回答を導くための情報を処理することができず、無回答になったり誤答になったりしていました。

本校では、これからも、教科書で基礎基本の定着を図り、さらに発展的な課題を授業の中で提示し、共に学び合うことで、情報の取捨選択や処理能力の向上も狙っていけるような教材研究、指導を行っていきます。

●理科《概要》

多くの項目(設問)で平均正答率は全国値を上回り、良好な結果でした。

1. 「エネルギー」を柱とする領域では、平均正答率が全国値を上回りました。光の性質に関する問題では、日光は直進するという知識を問題の状況と関連付けて考えることに課題が見られました。
2. 「粒子」を柱とする領域では、平均正答率が全国値をやや上回り、良好な結果でした。使用する機会の少ない実験器具の名称の理解に課題が見られました。

3. 「生命」を柱とする領域では、平均正答率が全国値をやや上回り、良好な結果でした。昆虫に関する問題では、体のつくりを説明するために適切な図を選択することや、成長の過程を記述することに課題が見られました。
4. 「地球」を柱とする領域では、全国値を上回り、良好な結果でした。自然の現象に関する問題では、科学的な言葉や概念の理解に課題が見られました。

☆理科における今後の指導改善点について

概ね良好な結果ではありましたが、科学的な言葉や概念の理解について課題が見られました。習得した知識を単なる言葉の理解にとどめず、次の学習や生活などに生かすことのできる理解に深められるような学習活動に取り組みます。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【学習環境・生活環境について】

- ・朝食を毎日食べている児童は全国値よりも高い。
- ・毎日同じ時間に寝たり起きたりしている児童の値は全国値をやや下回った。
- ・学習塾などでの勉強時間を含めた家庭学習時間は平日・土日をともに全国値を上回った。
- ・携帯電話やスマートフォンの約束をご家庭で決めて、それを守って使っている児童が全国値を上回った。

【自己肯定感】

- ・「自分にはよいところがありますか」「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に対して肯定的な回答の割合が全国値を下回った。
- ・「学校の先生は自分のよさを認めてくれていますか」という設問では全国値を上回った。

【学校生活・授業】

- ・「学校に行くのは楽しい」と回答する児童は全国値とほぼ同じだった。
- ・「授業でICT 機器をどの程度使用しましたか」などの ICT に関わる項目は全国値を上回った。
- ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問に肯定的な回答をしている児童の割合が全国値とほぼ同じであった。
- ・授業で学習したことを生活の中で活用できないか考える児童が算国理ともに全国値と比べて下回った。

3 今後の取り組み

本校の児童は、基礎基本の学力は身につけているものの、それらの知識を活用したり、自分の考えを記述したりする問題になると正答率が下がり、無回答率が高くなる傾向が見られました。

今年度は「子どもの学び合いを大切にした授業」をテーマに授業研究を進めています。本校の教育目標「ともに学び ともに育つ」にあるように、友だちと共に学ぶ中で考えを広げ、表現力を高められるよう指導を進めてまいります。

また、生活環境や学習習慣等の調査結果を踏まえ、学級活動や委員会活動、異学年交流等の子ども同士が関わり協力し合う機会を通し、それぞれの良さが発揮できる場面を意識的に作り、自己有用感や自尊感情を育てていきます。

あわせて、道徳の授業やいじめ予防授業での学びを学校生活の中で深める機会を積極的にとらえ、いじめを許さない心を育てていきたいと考えています。

今後も児童の自立と幅広い学習の機会をつくるため、ご協力をお願いいたします。